

国際先導研究 審査結果の所見

課 題 番 号	22K21341
研 究 課 題 名	パンデミック後日本とアジアの持続的社會經濟復興のための戦略的国際研究アライアンス
研 究 代 表 者	澤田 康幸
研 究 期 間	令和4(2022)年度～令和10(2028)年度
科学 研究 費 委 員 会 国際科学研究費第二部会 における所見	<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>日本およびアジアの經濟状況、政策についての革新的なデータベースを構築し、パンデミックの社會經濟的インパクトを厳密に明らかにして政策評価を行い、中長期にわたり、パンデミックから強固に復興し持続可能性の達成に貢献するための政策研究を行う。エビデンスに基づいた政策形成(EBPM)と政策に基づいたエビデンス形成(PBEM)を、日本・アジアで独自の形式で展開する。世界のトップ機関への派遣を含む若手の高度人材育成プログラムも展開する。</p>
	<p><b>【学術的意義、期待される成果】</b></p> <p>日本やアジアにおけるパンデミックの社會經濟的インパクトの実証研究を日本の研究者が先導して行うことは重要である。また、トップ研究者の計画の下に日本經濟、アジア經濟のビッグデータや行政データのデータベースを構築することは、今後長く世界中の政策研究者に貢献するという意義があり、当該研究分野における日本のプレゼンスを高めることも期待できる。</p> <p>研究代表者・分担者はすでに世界的ネットワークを有しており、多彩な国際共同研究が期待できる。若手研究者に、EBPMとPBEMのためのデータベースの構築と実証研究に携わる経験の機会を与え、さらに世界的研究機関への派遣を行うことで、将来の研究を担う人材の育成も期待できる。</p>